

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・工業技術基礎	単位数	2	担当者	高木・保科・山下・横沢
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	-------------

1、教科書・副教材

工業技術基礎（実教出版）

2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・木材加工に関する基礎的な技術を体験させる。 ・ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 ・刃物の原理を理解させ、機械や道具を適切に活用させる。（安全教育の徹底）

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①安全教育	①作業の安全	35	
		②刃物の調整	②刃物の原理と研磨の理論		
	5月	①刃物の調整	①バとカハの研磨		
		②小物作品の製作 ・設計図面について	②小物木工作品の製作 ・機械や道具の適切な活用方法（安全教育）		
	6月	①小物作品の製作 ・部材の木取り	①木取り寸法⇒部材加工 ・設計図面の理解と木工機械の操作実習		
	7月	①小物作品の製作 ・部材の加工	①部材を仕上げ寸法に加工 ・ほぞ、溝、組み手など		
	8月	①小物作品の製作 ・部材の組み立て	①各部材の組み立て		
	9月	①小物作品の製作 ・作品の仕上げ	①作品の仕上げ加工 ・カハによる調整、ペーパーによる研磨、塗装		
		①小物作品の製作 ②2年次のコース選択 機械工具の使用と安全	①完成した作品を展示発表 ②2年次コース選択（P：プロジェクト、D：デザイン） ・コース別に作品を製作 ・機械や道具の適切な活用（手押し・自動かん盤・丸鋸・レーザー加工機など）		
後期	10月	① 物作品の製作 P：小箱の製作 D：文箱、ティッシュ箱、照明の製作	①コース別に実習 設計図面に従い、部材の木取り	35	
	11月	① 物作品の製作 P：小箱の製作 D：文箱、ティッシュ箱、照明の製作	①コース別に実習 P：設計図面に従い、組み立てと仕上げ D：図柄をデザインをさせ、製作		
	12月		①コース別に実習 P：仕上げの加工と素地の研磨		
	1月	①物作品の製作 P：小箱の製作 D：文箱、ティッシュ箱、照明の製作	D：素地研磨、仕上げ塗装		
	2月	①次年度作品の設計 P：デザインの決定と図面の製作	①コース別に実習 P：木を素材とした次年度作品決定と図面制作		
	3月	D：素材別デザイン	D：素材による描き分け（質感表現）の練習		

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・機械や道具を適切に活用することができ、実習の内容を理解して作品に表現することができたか	レポート
思考・判断・表現	・機械や道具の基礎的な活用ができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

機械や道具の使用法を理解して、安全に作業をする。個性のある作品を造る。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・製図	単位数	2	担当者	早川・横沢
---	----	-------	-------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

インテリア製図（実教出版）

2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・日本産業規格に基づいた製図の基礎や図学について理解させる。 ・製作図や設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。 ・レタリングやトレースに関する知識と実践的な技術を習得させる。
--

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①製図用具の使い方 ②線の練習	①製図用具の正しい使い方を理解させる。 ②線の基本的な書き方や種類を理解させる。	35	
	5月	③図の拡大模写	③図を拡大模写する方法を習得させる。		
	6月	④第三角法投影図の理解	④第三角法投影図の理論を理解させる。		
	7月	⑤デザインの基礎知識	⑤デザインに関する基礎的な用語や理論を理解させる。		
	8月	①第三角法投影図の理解 ②平面図法と等角図法	①第三角法投影図を使いイスの3面図を理解させる。 ②図法を理解させ、図面に着彩をさせる。		
	9月	③トレース	③課題図を早く正確にトレースさせる。		
後期	10月	④日本産業規格の理解	④製図に関する日本産業規格について理解させる。	35	
	11月	※検定実施（10月）	※文部科学省後援トレス技能検定実施		
	12月	⑤家具の基礎製図 ⑥図面の着彩	⑤実在する小箱の寸法を測定し、第三角法投影図と等角投影図を用いて、小箱の設計製図を完成させる。 ⑥完成した図面に着彩させる。		
	1月	①建築装飾のデザイン	①建築図面に関する植栽の様式や形を着彩させる。		
	2月	②平面表示記号	②平面図に使われる表示記号を書かせる。		
	3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・製図における文字、図面、線の意味を理解し、デザインの感覚により、適切に表現することができたか	課題提出
思考・判断・表現	・製図用具を適切に活用することができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	実習態度・出席日数

5、学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・インテリア計画	単位数	2	担当者	早川
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

インテリア計画（実教出版株式会社）

2、科目の目標

- ・インテリア計画に関する基礎的な知識と考え方を習得。
- ・生活全般と関連性を持たせることで、実際に活用する能力と態度を育てる。
- ・インテリア用語、人体寸法、必要動作スペース、各寸法などについて理解。

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	①インテリア計画の概要 ②インテリアと人間工学	35	インテリア計画の概要 インテリアと人間工学
	5月	③インテリアへの応用 ④インテリアの安全 ※定期考査実施		
	6月	①寸法計画と規模計画 ②空間の計画		
	7月	③人体寸法と設計 ④配置と動線		
	8月	①インテリアエレメント ②インテリアの造形と心理 人間の感覚知覚と造形 ③色彩 ※定期考査実施		
	9月	④形態 ⑤テクスチャー ※定期考査実施		35
10月	④形態の概念、分類、装飾の役割を理解する ⑤テクスチャーの意味と意義を理解する ・伝統的、インテリアの部位、空間部位の各テクスチャーと、そのあり方を理解する ※学習内容の定着度を確認			
11月	①インテリアの環境 ・屋外環境 ・屋外環境 ※定期考査実施	インテリアの環境		
12月	・室外環境 ・日本の日照日射、気温と湿度、気候と風土を理解する ・日陰曲線図を理解する			
1月	・屋内環境 ・室内環境基準、湿り空気線図を理解する ※学習内容の定着度を確認			
2月	※定期考査実施			
3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・生活の中でのインテリア計画の必要性が、これまでの知識を踏まえ理解することができ、各単元について理解し、活用することができたか。	定期考査
思考・判断・表現	・扱ったインテリア計画について理解することができたか	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか	出席日数・授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

家具や内装などのインテリア、建築物などの基礎を学び自身の生活と繋げて行けるようにしていく。また、各単元の終了後、課題を出し知識を深めていく。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・インテリアエレメント生産	単位数	1	担当者	古畑
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

インテリアエレメント生産（海文堂出版）

2、科目の目標

- ・木材の基本的な性質について理解
- ・木材の活用方法や、家具の分類および構造について理解
- ・木材加工に関する基礎や切削の原理，木材の接着や塗装について理解
- ・安全教育

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	・作業と安全	18	作業と安全 木材の構造と性質 木質材料
		・木材と加工		
	5月	※学習内容の定着度を確認		
		・木材と加工		
	6月	・材の加工と組立		
	7月	・木材の表面処理		
	8月	・加工のための測定		
	9月	※定期考査実施		
後期	10月	・家具の分類，種類	17	木質材料 木材の表面処理 インテリアエレメントの構造 加工のための測定
		・部材の接合，平板の構造		
		・椅子の構造と機能の種類		
	11月	・インテリアエレメントの構造		
		・ベッドの構造と機能の種類		
		・テーブルの構造と機能の種類		
		・デスクの構造と機能の種類		
12月	・収納家具の構造と機能の種類			
	①インテリアエレメントの構造	17	インテリアエレメントの構造 作業の安全	
1月	・収納家具の構造（引き出しや戸の構造）			
	・和家具の種類と特徴や構造			
	①インテリアエレメントの構造			
	・作業の安全			
3月	※定期考査実施	※学習内容の定着度を確認		

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・木材加工や家具の仕組みや役割について理解することができ、ものづくりの計画を行うことができたか	定期考査
思考・判断・表現	・木材の基本的な性質について理解し、表現することができたか	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか	出席日数・授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

単元毎に小テストを実施し学習定着を図る。